

江戸川大学 学報

edodai.jp

2025年2月

Vol.23 No.55

●主要行事

●学内イベント

●諸報

国際交流活動

教育活動 研究活動

社会・地域との連携・交流活動

●栄典・表彰

●強化指定部活動報告

●学生団体・クラブ・サークル活動

●施設・防災・決算報告

●ありがとうロビン江戸川大学店



主要行事

2024 駒木祭



雨の中でも運営を頑張っていました



今回のテーマである「上笑気龍」のステージ前に集まる実行委員の学生達

11月2日(土)・3日(日・祝)に江戸川学園おたかの森専門学校と合同の駒木祭が開催されました。初日はあいにくの雨模様でしたが、2日目は晴天に恵まれました。来場者数は5300人以上となり、盛況のうちに終了しました。

学科・ゼミの教育研究活動の展示やクラブ・サークルの企画発表の一部を紹介



コピーダンス愛好会「BLACK♡ANGEL」



軽音楽部「JOYCE」



情報文化学科「ゼミ発表」



弦楽部



基礎・教養教育センター「教養教育シンポジウム」



駒木博物館「刀剣の展示及び組み立ての実演」



ダンス愛好会「DECK'S」



EDO Fes



EDO Show



電波放送部の焼きそば



駒木会ホームカミングデー



後夜祭

学園祭を終えて



今年度のテーマ「上笑気龍」は、「上昇気流」とかけており、常に笑って上を向いて、上に昇っていく学園祭にしたいという思いが込められています。更に、2024年の干支である「龍」も使い、龍のように心踊り、舞い上がるような学園祭にしたいという思いから決めました。

1年生のときから実行委員会に所属しており、当時はちょうどコロナ禍が明け始め、少しずつ従来の学園祭の姿を取り戻そうとしている時期でした。毎年、より良い学園祭にするため、形式を少しずつ進化させ、グレードアップさせる必要がありました。これまでの3年間、その変化の過程に携わることができたのは、とても貴重な経験でした。支えてくれる仲間たちのおかげで、無事に2日間をやり遂げることができました。協力し合うことで得られた経験は、一生の宝物です。

駒木祭実施にあたりご協力いただきました皆様、ご来場の皆様、誠にありがとうございました！

学園祭実行委員会委員長 関谷実樹さん

9月卒業式



9月25日(水)にA棟第一会議室にて9月卒業式が挙行され、社会学部人間心理学科1名、現代社会学科1名、経営社会学科8名、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科1名、情報文化学科3名、こどもコミュニケーション学科1名の計15名に学位記が授与されました。

学内イベント

こどもコミュニケーション研究所主催 こどもコミュニケーション フォーラム

11月3日(日・祝)に第13回こどもコミュニケーションフォーラムを行い、親子でダンスを楽しむ「親子でダンスワークショップ」を実施しました。(詳細は11ページに掲載)



国立公園研究所主催 国立公園映像コンサート

11月2日(土)に国立公園研究所主催による国立公園映像コンサートを行いました。

「国立公園の楽しみ方」「ここから近い国立公園・日光」「小さな草原の物語」「90周年を迎えた国立公園を訪ねる旅」等、国立公園研究所の研究者が集めた映像とともに、バイオリン+ピアノの生演奏を聴くぜいたくなライブコンサートでした。



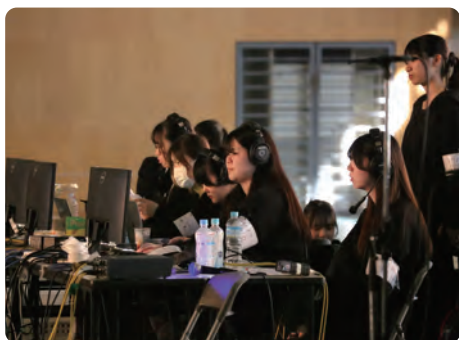
江戸川ガールズアワード(EGA) 2024

11月3日(日・祝)に第二体育館を会場に江戸川ガールズアワード(EGA)を開催しました。

このイベントは、経営社会学科の演習・実習の取り組みとして、音楽・ファッションビジネスコースの学生たちが作り上げる大型イベントで「NEXTAGE ARTIST AUDITION」と「ファッションコーディネート対決」の2部で構成されます。

「NEXTAGE ARTIST AUDITION」は全国の高校生を対象とした軽音楽コンテスト。音楽業界のプロフェッショナルが「次世代を担い、世界に通用する可能性を持った高校生アーティスト」を選ぶべく審査を行い、グランプリ受賞者には「NEXTAGE ARTIST」の称号が授与されます。

「ファッションコーディネート対決」は人気ブランドとのタイアップ企画。コーディネートテーマを決め、学生が各ブランドの商品を使って対決します。



イベントを運営した学生達

学内イベント

NEXTAGE ARTIST 2024 オーディション 決勝ライブ

第6回となる今年度の決勝出場者にはバンド部門3組が選出され、グランプリにはシュシュマレフが選ばれました。

ゲスト審査員は音楽プロデューサーの割田康彦氏、ヤマハミュージックジャパンの森山賢志氏の2名で、講評では「どのバンドも素晴らしく甲乙つけがなかった。出演したバンドのみなさんに拍手を送りたい」と話されました。



シュシュマレフ



Quiche



MetalTime

ファッションコーディネート対決

今年度は「コアジェネレーション」と題し、ファッションコーディネート対決を行いました。スタイリストの満園正明さんを特別審査員に迎え、ファッションビジネスコースの2年ゼミ生3チームがそれぞれ「BEAMS」「Ray BEAMS」「XLARGE」「X-girl」「JOURNAL STANDARD」「Oriens JOURNAL STANDARD」の商品と独自に仕入れた古着を使ったコーディネートで対決しました。優勝は「JOURNAL STANDARD」「Oriens JOURNAL STANDARD」の商品で、西暦3000年の未来がイメージのY3KをテーマとしたBチームが選ばれました。



学生たちがプロモデルをコーディネート

Vanity ミニライブ

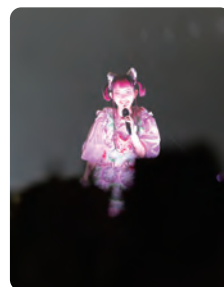
昨年度の江戸川ガールズアワードでグランプリを受賞したVanityがミニライブを行いました。疾走感のある音と男女のツインボーカルが奏でる、大人への憧れとアオハルを同時に感じられるバンドでメンバーはVo.(Kyo)、Gt.Vo.(Miya)、Gt.Cho.(Rui)、Ba.Cho.(Sui)、Dr.Cho.(Shun)の5人。経営社会学科の音楽ビジネスゼミ3年生がアーティストプロデュースを行い、音楽プロデューサーに割田康彦氏を迎え、「忘れてよ」を含む全2曲を披露しました。

「忘れてよ」は各種音楽配信サイトで配信しています。



水曜日のカンパネラ ミニライブ

江戸川ガールズアワードの特別ゲストとして、水曜日のカンパネラがミニライブを行いました。「たまものまえ」を含む計5曲を披露し、「たまものまえ」では、本学のコピーダンス愛好会「BLACK♡ANGEL」がバックダンサーを務め、ステージを盛り上げました。



異文化理解研修

8月27日(火)から9月10日(火)の約2週間、ニュージーランドのマッセイ大学アルバニー校で研修を行い、国際交流センター長の新井正彦特任教授の引率で、28名が参加しました。英語を学ぶだけでなく、オークランドの美しい自然やタウンタウンの観光など、語学と文化を学ぶ有意義な研修となりました。



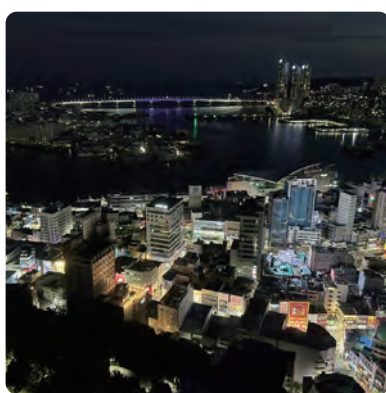
語学研修(オセアニア)

8月31日(土)から9月21日(土)の約3週間、オーストラリアのグリフィス大学ゴールドコースト校で研修を行い、3名が参加しました。語学力の向上と、異文化交流を通じて新しい価値観を学び、物事を多面的に理解する力を養う場になりました。



語学研修(東アジア)

9月8日(日)から9月12日(木)の5日間、韓国・釜山で研修を行い、現代社会学科の崎本武志教授の引率で16名が参加しました。釜山外国語大学校日本語学科の学生と交流し、歴史博物館や釜山港を訪れるなど、新しい経験と出会いを得た研修となりました。



海外体験研修(東南アジア)

2025年2月12日(水)から2月16日(日)の5日間、タイのシーナカリンウィロート大学で研修を行い、現代社会学科の佐藤秀樹准教授と国際交流センターの三谷彩華講師の引率で6名が参加しました。現地大学生との交流や、世界遺産であるアユタヤ遺跡なども訪れ、タイの歴史や文化に対する理解を深めることができました。

海外専門研修(現代社会学科)

8月22日(木)から8月25日(日)の4日間、現代社会学科の川瀬由高准教授、奥山正樹教授の引率で

8名が台湾の高雄市を訪れ、調査実習プログラムに取り組みました。

寿山国家自然公園や、高雄市の蓮池潭周辺や六合夜市といった著名な観光地を訪れました。学生は、現場の状況にあわせて研究テーマや調査項目を自ら考案し、班員と協力してデータの収集に取り組みました。学生主体のフィールドワーク研修は、調査スキルの向上と、日台の生活文化の差異と共通点について考察する機会となりました。



国際交流センターが留学生と一般学生の交流パーティーを開催

国際交流センター主催の留学生と日本人学生の交流パーティーが学生食堂 Dining & Cafe Edogawa で5月29日(水)に開催されました。参加した留学生25名と一般学生40名、教職員23名が料理を囲みながら会話を楽しみました。学生が主役のカジュアルなパーティーは、留学生たちが積極的に一般学生や教職員とコミュニケーションを取り、大いに盛り上がりました。

国際交流センターが留学生バスツアーを実施

11月5日(火)に国際交流センターが留学生バスツアーを実施しました。当日は好天に恵まれ、留学生26名と教職員8名の計34名が参加しました。午前中は埼玉県春日部市にある「防災地下神殿」と首都圏外郭放水路を見学しました。午後は筑波山で山歩きに挑戦。ケーブルカーに乗って筑波山頂駅まで登り、女体山山頂を経由してつつじが丘まで下るルートを歩きました。爽やかな秋の空気と紅葉のはしりをみんなで楽しみました。



館林牧子教授のゼミ学生が

「こちらJCOM 安心安全課」に出演

マス・コミュニケーション学科の館林牧子教授のゼミ学生が、JCOMチャンネルで放送されている「こちらJCOM 安心安全課」に出演しました。

ゼミ学生たちは、2023年で関東大震災から100年を迎えたことから、防災について改めて考えようと防災グッズを考える企画に取り組みました。自身が被災した際の経験や、授業で学んだこと等を参考にし、「先行品がなく、災害時に自分が必要になると思うもの」を考え、緊急用脱出扉やガラスが貫通しない靴下等を考案しました。放送では、防災グッズの解説や試作品を制作するにあたって苦労したこと等を学生が語りました。

現代社会学科・奥山正樹教授が 江戸川区自然動物園で 学外実習を実施

7月6日（土）に、奥山正樹教授の引率で現代社会学科の学生9名が、江戸川区自然動物園を訪問しました。

江戸川区自然動物園は、全国でも数頭しかいない動物など国内外の希少種も多く、種の保存にも積極的に取り組んでいます。当日は、飼育担当（動物取扱責任者）の河村早苗様から、園内の施設と動物

について詳しく解説していただき、普段は見ることのできないバックヤードで、動物たちに与える飼料の調整や、動物の診療についても見学しました。

参加した学生たちは、「国内外の野生動物の種の保存」「地域の子どもたちへの環境教育」など、現地で学んだ動物園の取組みについて、今後さらに考察を深めていきます。



経営社会学科がゲームビジネス 特別講義を実施

6月20日（木）に、1年次配当の科目「基礎ゼミナール」の学科合同授業として、KADOKAWA Game Linkage 取締役でファミ通グループ代表の林克彦氏を招き、「ゲーム市場の現状とこれから」と題した特別講義を実施しました。ゲームビジネスの輪郭が浮かび上がってくる素晴らしい

しい講義をしていただき、聴講した学生たちは多くの学びを得ることができました。

情報文化学科

「情報文化キャリア総合」で 実務家を招いた特別講義を実施

情報文化学科では、社会で活躍する実務家を招いて、学科専門分野と関連が深い業界の動向、業務・職務の具体的内容と社会的意義を知るために、講義科目「情報文化キャリア総合」（3年生対象科目）を開講しています。

今年度はスポーツリック・ゲームズ株式会社の新英幸氏、Webデザイナーの山内三紀子氏、LIFEDIZAINの山内三紀子氏、LIFEDIZAINの山内三紀子氏をお迎えし、仕事の魅力や業界を目指すうえで求められることについて、丁寧な語っていただきました。

受講した学生にとって、実務家の生の声を聞き、自身の将来を真剣に考える機会となりました。

仁志敏久客員教授が 「スポーツ指導者論Ⅰ」に 内川聖一さんを招いて 特別講義を実施

7月3日（水）に、経営社会学科の仁志敏久客員教授が担当科目「スポーツ指導者論Ⅰ」に元プロ野球選手の内川聖一さんを招き、特別講義を実施しました。

内川さんが幼少期からプロ生活を終えるまで歩んできた野球人生のさまざまなステータスで、どのように競技と向き合っていたのか、また、どのような指導者との出会いがあり、受けた指導がどのように自身の糧となったかについて、語っていただきました。

質疑応答では「内川さんにとって理想の指導者像は」など多くの質問が挙がり、そのすべてに真摯に回答していただきました。

将来スポーツ指導者を目指す学生や、競技者として大学スポーツに打ち込む学生にとって、多くの示唆をいただいた特別な時間になりました。



仁志敏久客員教授（写真・右）と内川聖一さん（写真・左）

経営社会学科が ファッションE.C.ショップを開設

経営社会学科ファッションビジネスコースの2年生が中心となり、約半年の準備期間を経て

教育研究活動



2024年7月、古着系ECショップ「TIME STOCK EGA」を開設しました。

1990年代から2000年代のビンテージ古着を中心に、学生がサイトデザイン、買い付け値決め、決済発送、在庫管理、SNSによるプロモーション活動までを運営します。

一連の業務は江戸川学園の事業会社である株式会社江戸川学園を通じて行われます。このサイトによって生み出される利益（経費を除く）の一部は、公益社団法人日本自然保護協会に寄付され、水資源問題や森林保全、自然観察指導員の養成に生かされる予定です。

情報文化学科の学生が東京都ファシリテーター養成講座に参加

情報文化学科では、2017年度から東京都の依頼を受けて、グループワークを促進するためのファシリテーター（ボランティア）として、中高生にネット利用に関する助言を行うなど、活発な活動を行っています。

6月17日（月）に、東京都より担当者を江戸川大学にお迎えし、新たにこの活動に加わる学生を対象としたファシリテーター養成講座を実施しました。参加学生は、ネットに関する青少年の課題、講座の進め方、活発な議論を促進する方法などについて熱心に講義を聴き、グループワークを通して、これからのファシリテーター活動への意欲を高めました。

こどもコミュニケーション学科の4年生が乳幼児救急法認定の集中講座を受講

8月7日（水）から9日（金）までの3日間にわたり、こどもコミュニケーション学科の4年生が乳幼児救急法認定の集中講座を受講しました。

この集中講座は、こどもの緊急時に医師や救急隊に引き継ぐまでの行動手順と優先順位を学ぶものです。運営するマスターワークス社と内容を調整し、「いざという時

に行動が起こせる」ことを重視して、実習に十分な時間を割いた約19時間のプログラムとしました。

受講学生は、「気道確保」「回復体位」「心肺停止への対応」「止血」「こどものけがや急病の調査と手当て」などについて、蘇生法訓練用の乳児・幼児マネキンを使ったり、ペアを組んで包帯法を試行したりしながら学びました。



神田洋教授のゼミ生が「小学生の甲子園」で記者体験プログラムに参加

マス・コミュニケーション学科の神田洋教授の専門ゼミナールに所属する3年生8名が、8月15日（木）から22日（木）に、神宮球場などで開催された高円宮賜杯全日

本学軟式野球大会マクドナルド・トーナメントで記者体験プログラムに参加しました。ゼミ生が取材した執筆記事や撮影写真は、情報サイトOVO（オーヴォ）に掲載され、Yahoo!ニュースなどにも転載されました。

人間心理学科「実験心理学特殊講義」で特別講義を実施

人間心理学科の浅岡章一教授、西村律子准教授の担当科目「実験心理学特殊講義」は、様々な心理学領域における睡眠研究について、これまで行われてきた研究を紹介しながら、領域横断的な研究の展開を学生とディスカッションしながら進めていく講義です。

今年度は、不思議現象に対する態度に関する研究を数多く行われている大阪樟蔭女子大学の川上正浩教授と独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所の池田大樹先生にお越しいただきました。

川上正浩教授には、幽霊、おぼけ、占い、おまじないなど、科学的には説明できずとも、一定数の人が信じている現象である「不思議現象」について、それらを信じやすい人と信じにくい人の態度の特性や、認知機能との関連などについて、池田大樹先生には、睡眠

科学の知見を生かした労働者の健康・安全確保への取り組みについてそれぞれ解説いただきました。

経営社会学科「音楽ビジネス概論」で株式会社イープラスの中野拓人氏が特別講義

経営社会学科は、11月19日（火）に、「音楽ビジネス概論」（担当：関根直樹教授）の講義で、株式会社イープラス新規興行企画室室長の中野拓人氏を講師としてお招きし、特別講義を行いました。

講義のタイトルは「プレイガイドとは」。中野氏は、プレイガイドの50年にわたる歴史を主要な出来事や流行などを織り交えながら解説しました。また、プレイガイドとコンビニとの関係、新規事業として展開するポップホップフェスティバルやeスポーツイベントなど、Z世代に向けた主催興行についても語りました。

こどもコミュニケーション学科の1年生と2年生が合同でコンサートを開催

10月26日（土）にE棟の映像ホールにて、こどもコミュニケーション学科で「器楽表現の技術A」「器楽表現の技術B」を履修している1年生と2年生が合同でコンサートを開催しました。

こどもコミュニケーション学科



の吉岡三貴講師を中心に、「器楽表現の技術A・B」担当の齊藤紀子先生、「声楽表現の技術A・B」担当の中津川祥子先生、そして江戸川大学の音楽室に常駐しているピアノのインストラクターの先生方が、学生たちの演奏指導にあたりました。

コンサート当日はこどもコミュニケーション学科の教員や上級生、こどもコミュニケーション実習センタースタッフ、保護者の方々が来場し、全38組の演奏を楽しみました。

野上玲子講師のゼミ生が「スポーツ政策学生会議」で発表

現代社会学科の野上玲子講師の専門ゼミナールに所属する3年生11名が、10月19日（土）、20日（日）に明治大学で開催された「スポーツ政策学生会議」に出場しました。

野上ゼミの学生たちは、AグループとBグループの2つに分かれ、Aグループは「流山スポーツシティ構想」人口増加率6年連続日本一！スポーツで日本一から世界一誇れる街「流山」へ！、Bグループは「Enjoy for everyone」で創るパーク構想「流山の未来はここにある！」というタイトルで、それぞれ文献調査やフィールドワーク、インタビューなどの調査に取り組み、その成果を発表しました。大会では入賞には至りませんでしたが、他大学の学生との交流や多様なスポーツ政策の発表を聴けるといった、貴重な経験から多くの学びを得た機会となりました。

現代社会学科「環境と市民活動」でJICA海外協力隊のセミナーを実施

現代社会学科の佐藤秀樹准教授が担当する「環境と市民活動」の授業内で、独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）の海外協力隊に関するセミナーが開催されました。今回のセミナーではJICAの

海外協力隊制度を紹介するとともに、開発途上国における市民社会での環境保全活動の進展について学生の理解を深めることを目的としました。

公益社団法人青年海外協力協会の滝澤航爾氏がJICA海外協力隊の概要や仕組みについて説明しました。スリランカで海外協力隊として活動した奥寺信行氏は、スリランカのゴミ分別回収の運営改善や家庭用コンボストの普及活動、さらには教育現場での環境教育に従事しており、活動内容だけでなく、現地での生活における喜怒哀楽も交えながら、参加学生に貴重な経験を伝えてくれました。



教育研究活動

西条昇ゼミが ウォークイベントを開催

マス・コミュニケーション学科
の西条昇ゼミは、2025年2月
2日(日)に、『西条昇教授と歩く
タモリが新宿にいた頃』新宿アル
タ閉館を惜しんで』と題し、特
別講義とウォークツアーを開催し
ました。

今回のイベントは、タモリ氏
がMCを務めた「森田一義アワー
笑っていいとも!」が生放送され
ていた新宿アルタが2025年2
月末で営業終了となることを受
け、企画されました。ツアーで
は、タモリ氏が密室芸人として活
動を始めた新宿の小さなスナック
「ジャックの豆の木」、漫画家の赤
塚不二夫氏らと日夜その芸を披露
した、新宿の「アイララ」や「ひ
とみ寿司」などを巡り、「笑ってい
いとも!」でお笑い界の頂点に立
つまでのタモリ氏の新宿での足跡
を巡りました。

マス・コミュニケーション学科 学生の執筆記事が ラグビーサイトに掲載

マス・コミュニケーション学科
の神田洋教授の専門ゼミナールで
スポーツジャーナリズムを学ぶ3
年生の執筆記事が、流山ラグビー
クラブの公式Webサイトに掲載
されました。

執筆したのは吉田妃麻里さん、
渡邊竜輝さん、藤山ゆりあさん、
黒田貴明さん、大谷侑生さん、開
原健太さん、吉田達哉さんの7名
で、それぞれスポーツ関連の書籍
を1冊取り上げ、紹介しました。

大学生意識調査プロジェクト (FUTURE 2024)に参画

マス・コミュニケーション学科
の井上一郎教授の専門ゼミナール
に所属する3年生6名(岩本直
也さん、岡野晃己さん、小林彩
葉さん、小宮恒太さん、土肥寿々
乃さん、藤原百花さん)が参画し
た大学生の意識調査プロジェクト
「FUTURE 2024」の調査結果が発
表されました。

大学生意識調査プロジェクト
「FUTURE」は、毎年、公益社団
法人東京広告協会が主催し、博報
堂など同協会の賛助会員社のマー
ケターの方々から適時協力をいた
だきながら、大学生(3年生)が
主体的に、約半年間をかけて調査
設計から分析そして報告書の作成
まで一連の作業に取り組む歴史あ
るプロジェクトです。

2024年の調査テーマは『大
学生の情報の利活用に関する意識
調査』です。12月9日(月)には、
東京広告協会でプレス発表が行わ
れ、多くの記者や関係者に対して
江戸川大学の学生も発表を行いま

した。調査結果の詳細は東京広告
協会のWebページで公開されて
います。



教職課程センターが教職合宿と 教材研究合宿を実施

教職課程センターは、9月4日
(水)から9月6日(金)にかけ
て、集中的に模擬授業を行う教職
合宿、11月4日(月)から11月6
日(水)にかけて、史跡や文学作
品ゆかりの地を巡る教材研究合宿
を実施しました。

模擬授業では、学生が教員役、
生徒役の両方を体験し、授業の進
め方や教材の作り方などをそれぞ
れの視点から学びました。模擬授

業終了後は学科や学年、取得する
教科を超えて、積極的に授業や教
職についての意見を交わしました。
教材研究合宿では、「太宰治につ
いて学ぶ」をテーマに掲げ、青森
県内にある小説家太宰治ゆかりの
地や三内丸山遺跡、立佞武多(た
ちねぶた)の館、青森県立美術館
などを巡りました。



マス・コミュニケーション学科 学生制作の動画作品紹介

マス・コミュニケーション学科の小久保利己ゼミ、森川俊生ゼミでは映像制作に取り組んでいます。2024年度の小久保ゼミ3年次生は『私小説』と題した短編映画を制作。森川ゼミ3年次生は『提燈祭りにかける人々〜本三保存会の絆〜』『甦れ青春』とそれぞれ題してドキュメンタリー作品を制作しました。作品は大学公式YouTubeからご覧いただけます。

「私小説」

提燈祭りにかける人々
～本三保存会の絆～

甦れ青春

崎本武志教授が「温泉観光実践士」 養成講座で講演

現代社会学科の崎本武志教授が、2024年度から会長を務める温泉観光実践士協会は、2002年に発足した温泉愛好会を母体として2015年に発足し、温泉の正しい理解や温泉観光地の活性化に関する人材の育成を目的として「温泉観光実践士」養成講座を開講しています。

崎本教授はこの養成講座の一環として、和歌山市の「紀三井寺ガーデンホテルはやし」にて「温泉と旅行企画」をテーマに講演を行いました。崎本教授は講演で、「旅行業界においては、コアな温泉ファンが納得するような、多様性のある温泉旅行商品を企画することが重要である」と受講者の皆様に訴えました。

中島金太郎講師の研究成果が 長崎の魅力を発信する 季刊誌『楽』で紹介

こどもコミュニケーション学科の中島金太郎講師の研究成果が、長崎の魅力を発信する季刊誌『楽』64号で紹介されました。

中島講師の研究が紹介されたのは、佐世保湾に面する西彼杵半島の北端にある横瀬浦を特集した記事「海のシルクロード 横瀬浦」です。

中島講師は、横瀬浦がかつて国際貿易都市だった証しが残されていないかを探し求める発掘調査を主催。2020年から4年間行なわれたこの調査の結果、戦国時代から江戸時代初期に使用されていた貨幣、キリシタン遺物の可能性のあるガラス製品などのほか、中国や朝鮮の中近世の幅広い時代の陶磁器が出土しました。横瀬浦では、ポルトガル船が来航するよりも前から、そしてポルトガル船が去った後も、長きにわたって海外との交流があったという、驚くべき事実が判明しました。

国立公園研究所が日本と台湾の 国立公園関係者により開催された 交流ワークショップに参加

現代社会学科の中島慶二特任教授と奥山正樹教授が、日本と台湾の国立公園関係者により開催された「日台交流山岳国立公園ワークショップ」に参加しました。

台湾の国家公園関係者を日本に迎えて行われた開会式では、台湾の国立公園制度の研究を続けている中島特任教授が、日本側有識者を代表して「日本の国立公園の概要」と題する講演を行い、日本の自然の特徴、国立公園の景観の特色、自然公園システムの制度などを解説しました。

石橋美香子講師が 「日本×中国保育子育てシンポジウム2024」で講演

人間心理学科の石橋美香子講師が8月31日（土）に、家庭まち創り産学官協創ラボと中日幼児教育交流協会が主催する「日本×中国保育子育てシンポジウム2024」で、日中の保育や幼児教育におけるテクノロジーやAIの利用可能性について講演を行いました。

シンポジウムのテーマは、「保育におけるテクノロジー、AIの活用とその意義（事例や先端研究から見える新たな可能性）」。保育の分野にも広がりつつあるテクノロジーやAIの発達による変革について、日本と中国における最先端技術を活用した実践や最新研究を基に、各方面の専門家がディスカッションしました。

佐藤秀樹准教授がバングラデシュ での6次産業化を通じた生計向上 プロジェクトを報告

現代社会学科の佐藤秀樹准教授が、企画立案および専門家として参加している「バン格拉デシュ・ジョシール県における零細ヤシ砂糖生産者および花卉農家の6次産業化を通じた生計向上プロジェクト」の第1年次の事業完了報告と第2年次の進捗報告を行いました。

第1年次事業では、135世帯

教育研究活動

の零細農村生産者を対象に、協同組合の設立や技術研修を通じて能力開発を行いました。「ヤシ砂糖生産」「手工芸品づくり」「花卉生産」「アグロツーリズム」の各グループで、現金収入向上を目指し、当初目標であった5%増加を上回る成果を達成。また、小学校における有機農園の開設と、そこでの環境教育も実施されました。

第2年次事業では、事業開始から半年が経過した11月時点で、135世帯の受益者が参加する協同組合の組織強化を図るための研修会の開催、ヤシ苗木の植付け、8店舗での商品開発と販売、アグロツーリズムの本格的な実施に向けた基盤整備、さらに公立小学校での有機菜園づくり活動などが進められています。

今後は、零細農村生産者が付加価値のあるヤシ糖や花卉の商品開発を行い、市場での本格的な販売を継続的に推進することで、受益者の生計向上に寄与することを目指します。

第12回情報教育研究会を対面とオンラインのハイブリッドで開催

江戸川大学情報教育研究所が7月28日(日)に「第12回江戸川大学情報教育研究会」を対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。「情報1が始まって、授業はど

う変わったか？」をテーマとし、対面には首都圏を中心に、オンラインには日本全国から、高等学校や大学の先生方が多数参加し、大盛況のうちに終了しました。

本学情報教育研究所からは、玉田和恵教授、山口敏和准教授、小原裕二准教授、松尾由美講師、上西秀和助教の5名が、「情報1に対応した大学でのICT問題解決力育成」について発表しました。

尾花真梨子准教授が不登校支援・教育相談研修講座を担当

人間心理学科の尾花真梨子准教授が、松戸市教育委員会の要請を受け、「令和6年度不登校支援・教育相談研修講座(動画配信)」の講師を務めました。

本講座は、教育相談や不登校支援における教員のスキルアップを目的とし、例年開催されている事業の一つです。

尾花准教授は、「『ティーチャーズ・トレーニング』の視点を活かした不登校を含む学校不適応予防について」という演題で、市内小中学校66校の教員向けに講話を行いました。

江戸川大学睡眠研究所が『大学ジャーナルオンライン』で紹介

江戸川大学睡眠研究所が、大学

教育関連専門ニュースサイト『大学ジャーナルオンライン』のコラム「徹夜で勉強」では、成績は伸びない? 「睡眠」について様々な視点で研究し、社会に発信する江戸川大学「睡眠研究所」にて紹介されました。

睡眠研究所所長の浅岡章二教授は、「睡眠研究者に関わらず、様々な人々とコラボレーションした研究を展開して、睡眠研究の裾野を広げていきたい。江戸川大学では睡眠実験を行う環境が整っているため、学生には、科学の研究対象として「睡眠」を捉えてほしい」と語っています。

第13回こどもコミュニケーションフォーラム開催報告「親子でダンスワークショップ」

こどもコミュニケーション研究所は11月3日(日・祝)に、第13回こどもコミュニケーションフォーラムを開催しました。

フォーラムでは、親子でダンスを楽しむ「親子でダンスワークショップ」を実施し、第1部は赤ちゃんを対象に子ども10名とその保護者15名、第2部は2歳から3歳を対象に子ども12名(きょうだい参加含む)とその保護者11名が参加しました。

講師としてNHK「みいつけた!」にダッソー役で出演中の古家優里氏をお迎えし、こどもコミュニケーション

ション学科の教員と、学生が準備・運営にあたりました。ワークショップでは、講師の即興で楽しいダンスにより、参加者の心も体も解きほぐされて、笑顔があふれる時間となりました。



川瀬由高准教授の共編訳書
『王崧興「亀山島」と漢人社会研究…
翻訳・論考・資料」が出版

現代社会学科の川瀬由高准教授が筆頭編訳者となった『王崧興「亀山島」と漢人社会研究…翻訳・論考・資料」が風響社より出版されました。

本書は、川瀬准教授が研究代表者を務め、日本文化人類学会植松東アジア研究助成金からの研究助成をうけて実施した共同研究の成果となっており、台湾の離島・漁村社会を舞台とした古典的民族誌『亀山島』（1967年出版）の翻訳に加えて、全体の約半数のページを解説・資料が占めるという独自の構成をとった翻訳論文集となっています。



睡眠研究所のスタッフが分担執筆をした『睡眠学の百科事典』が出版

睡眠研究所スタッフの人間心理学科の福田二彦特任教授、浅岡章二教授、山本隆一郎教授が分担執筆をした、日本睡眠学会（編）『睡眠学の百科事典』が丸善出版株式会社より出版されました。本書は、

日本睡眠学会が編纂した「睡眠学」に関する初めての百科事典となっています。



山本隆一郎教授が編集・執筆した『対人援助職に知ってほしい睡眠の基礎知識』が出版

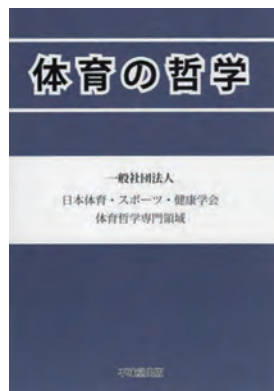
人間心理学科の山本隆一郎教授が編集・執筆をした、『対人援助職に知ってほしい睡眠の基礎知識』が、岩崎学術出版社より出版されました。本書では実際に睡眠問題に対する支援や治療を行っている執筆者たちが、睡眠理解に必須の基礎知識から支援・治療までを簡潔に解説しています。



野上玲子講師が分担執筆した『体育の哲学』が出版

現代社会学科の野上玲子講師が分担執筆した、日本体育・スポーツ・健康学会体育哲学専門領域『体育の哲学』が不味堂出版より出版されました。

本書は、学校教育における教員免許取得のための必修科目として位置付けられた「体育哲学」を通して、貧困、経済等の格差、ジェンダー、国際理解、環境といった地球規模の社会課題に対し、体育・スポーツはいかに応えるべきなのかを、各著者が思案した論文集です。



中島金太郎講師が分担執筆した『鎌倉の人物事典』が出版

こどもコミュニケーション学科の中島金太郎講師が分担執筆した『鎌倉の人物事典』が雄山閣より出版されました。

本書は、鎌倉ゆかりの近現代の医師・郷土史家・研究者・教育家・思想家等の先学者262人の業績や人物像を紹介する書籍です。

中島講師は、歴史学者の亀井高

孝や今野國雄、元鎌倉市長の正木千冬、法廷弁護士・外交官を務めた陸奥廣吉などの来歴・活動を調査し、各員の功績や学術的意義について執筆しています。



福田二彦特任教授の著書『そもそも「よい眠り」とは何か—努力によらない睡眠改善のヒント—』が出版

人間心理学科の福田二彦特任教授の著書、『そもそも「よい眠り」とは何か—努力によらない睡眠改善のヒント—』（大修館書店）が出版されました。本書は、睡眠にまつわるデマや都市伝説、子どもから大人まで様々な年代の睡眠について取り上げ、睡眠に関する正しい知識を判りやすく解説しています。



社会・地域との連携・交流活動

宮崎孝治学長が厚生労働省の 厚生科学審議会臨時委員に就任

宮崎孝治学長が6月18日（火）に、厚生労働省の厚生科学審議会臨時委員を委嘱され、新設された「理容師・美容師専門委員会」の委員長代理に就任しました。

「理容師・美容師専門委員会」は近年、消費者ニーズ等の高度化・多様化が進む中で、理容師・美容師が時代のニーズに沿った知識及び技術を修得できるような養成制度に加え、理容師及び美容師に關し必要な事項について総合的な検討を行う予定です。

玉田和恵教授が千葉県立長生高等学校で情報モラル問題解決力育成のための保護者向け講演を実施

5月25日（土）に、情報文化学科の玉田和恵教授が千葉県立長生高等学校で行われた保護者研修会で講演を行いました。

今回の研修会は、保護者と協力して情報モラル問題解決力を育成することを狙いとして企画されました。

玉田教授は講演で、コミュニケーショントラブルや情報拡散をどう回避するか、また、長時間のネット利用を防ぐコツなどを解説しました。

睡眠研究所スタッフが 流山市ゆうゆう大学で講演

睡眠研究所スタッフの人間心理学科・浅岡章一教授、山本隆一郎教授、野添健太講師が、65歳以上の流山市民を対象に開かれている「流山市ゆうゆう大学」にて、「健康のための睡眠」と題した講演を行いました。

6月11日（火）から7月11日（木）の間、計6会場で行われた講演では、「睡眠の生理学的メカニズム」、「睡眠が心身に及ぼす影響」、「良い睡眠のために気を付けるべきこと」などについて睡眠研究所スタッフが概説しました。講演後の質疑応答の時間には、どの会場においても多くの質問があり、受講生の睡眠に対する高い関心が伺えました。

流山市職場対抗消火技能大会で 本学事務職員が個人の部（男性） 1位、団体の部（男性）2位入賞

10月25日（金）に流山市東消防署で開催された「職場対抗消火技能大会」に、本学から学務部教務課の宮林直輝さんと学務部学生課の松山和樹さんと出場しました。

大会では、消火器を使用した疑似消火活動、非常ベル操作、消火後の119番通報までのタイムを競いました。松山和樹さんが個人の部（男性）において第1位となり、

江戸川大学は団体の部（男性）で第2位に入賞しました。



宮林直輝さん（写真・左）と松山和樹さん（写真・右）

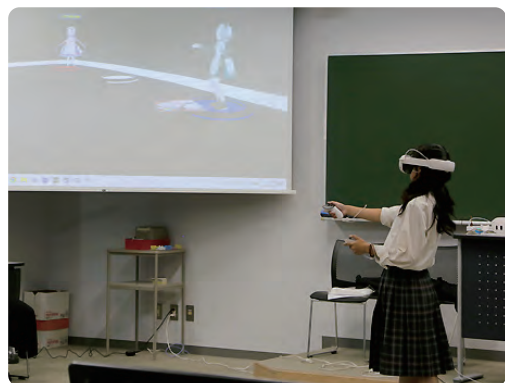
情報教育研究所主催「第12回サイエンスセミナー2024 in 江戸川大学」

情報教育研究所は、8月5日（月）に「第12回サイエンスセミナー2024 in 江戸川大学」を開催しました。

「五感でたのしむサイエンス」をテーマに、3Dペンや3Dモデリング、ドローン操縦、ロボットプログラミング、VR/MRなどの体験や、大学の研究室で使われているロボットやロボットアーム、3Dプリンタ等の実演、AI音楽クイズを使った研究紹介、英語のWord Huntコーナーなど、様々なプログラムを実施しました。

その他にも幼児・小学生向けに、本学学生が講師を務め、ストロー

飛行機をどうすれば遠くまで飛ばせるかをデータに基づいて考えるデータサイエンス教室や、高校生向け3DモデリングBlender入門講座を実施しました。高校生による研究発表では、他校の高校生や情報教育研究所の研究員の前で、グループごとに研究内容を発表しました。



社会・地域との連携・交流活動

八木徹教授と松尾由美講師が 茨城県立藤代高等学校2年生の 探究活動に協力

情報文化学科の八木徹教授と松尾由美講師は茨城県立藤代高等学校2年生の「総合的な探究の時間」の活動を支援しています。

八木教授と松尾講師はAI・SNS・デジタルゲームなどの情報技術に関するテーマを設定した生徒を担当し、生徒達のリサーチプラン、またその調査項目と調査方法について、もう一歩踏み込んだ設定方法や改善できる点などのアドバイスを送りました。

2024年えどがわ・ こどもサロン開催報告

こどもコミュニケーション研究所は、今年度、計2回のえどがわ・こどもサロンを実施しました。

1回目は10月26日(土)に「体育館で一緒に遊ぼう」をテーマに実施しました。こどもコミュニケーション学科の教員と学生ボランティアが準備および当日の運営を担当し、参加者は傘袋ロケットを作って飛ばしたり、親子でラーメン体操を踊ったり、パラバレーを楽しんだりと、広い体育館で思いきり体を動かして遊びました。

2回目の12月21日(土)では、今年も昨年度に引き続き、流山ぶたごの会と共同でクリスマス会を

行いました。学生ボランティアがクリスマスの手遊びや、「あわてんぼうのサンタクロース」のパネルシアター、ジングルベルの演奏と歌を披露し、イベントを盛り上げました。今年もサンタクロースが登場し、サンタクロースからメダルを手渡された子どもたちは大喜びでした。



江戸川大学と 千葉県バスケットボール協会の 包括連携協定調印式を開催

7月22日(月)に、江戸川大学と千葉県バスケットボール協会との包括連携協定調印式が行われました。

今回の連携協定は、江戸川大学のこどもコミュニケーション学科やバスケットボール部が、千葉県バスケットボール協会と連携してできることを模索し、相互の連携を深めるためのものです。プロチームや企業とも協力しながら、20年後を見据え、「スポーツで未来を創る」千葉県発の取組みを進めるべく、連携協定に至りました。

千葉県バスケットボール協会専務理事・事務局長の大野健男様からは、「スポーツを文化として定着させたい。地域貢献・まちづくりの拠点になる事業をしたい。子どもたちを最優先にしたスポーツ体験の場を提供したい。こうした思いを共有し、実現に向けた努力を惜しまない守屋志保教授との出会いがあった。江戸川大学様とともに、日本の先駆けとなる取り組みを進めていきたい」と力強く抱負を述べられました。



本学教職員と千葉県バスケットボール協会の大島千明副会長(前列・右)、大野健男専務理事(後列・右から2人目)

現代社会学科で観光学を 学ぶ学生がJR東日本の ウォーキングイベント 「駅からハイキング」に参画

現代社会学科の崎本武志教授ゼミナール所属学生をはじめ、同学科で観光学を学ぶ学生たちが、J

R東日本が全路線で展開しているウォーキングイベント「駅からハイキング」のハイキングコースを企画しました。

現代社会学科の学生たちが参画したのは、「学生が考えた駅からハイキング」、略して「学生駅ハイク」企画です。JR柏駅をスタートとするイベントのコースを、同駅の職員の方々と共同で開発しました。手賀沼でとれた鰻の水切り場があった大堀川や旧水戸街道など、江戸時代の暮らしに思いを馳せたり、立ち寄りたくなるお店を見つかったりする柏の町歩きコースとなっています。

11月14日(木)には柏駅でイベントのオープニングセレモニーが行われ、江戸川大学生とJR柏駅職員が結成した「駅からハイキング押しバンド」が楽曲の演奏を披露し、開催初日を盛り上げました。



外部表彰

マスコミ学科学生が「2024 CHIBA UNIVERSITY PRESS」で優秀賞を受賞

マス・コミュニケーション学科の館林牧子ゼミナールの学生が千葉日報社主催「2024 CHIBA UNIVERSITY PRESS(CUP)」で優秀賞を受賞しました。CUPは千葉県内の大学生が千葉日報社の学生記者として取材や紙面のレイアウトなど新聞作りを体験する企画です。11月28日(木)に今年度の閉講式が行われ、参加大学が制作した紙面の講評などが行われました。

今年度、CUPに参加したのは館林牧子ゼミナール所属の3年生9名(田辺里穂子さん、チョ・ナヒョンさん、石川綾捺さん、大湊李緒さん、北見隼人さん、柴田真弥さん、對馬琴音さん、森安遥さん、八百屋すももさん)で、千葉県の伝統工芸品に注目し、人手不足や職人の高齢化が問題視されるなか、伝統工芸品に対する作り手の思いを丁寧に取材し、『多様な形で継承、変化も』と題して記事をまとめました。



閉講式で賞状授与

情報文化学科の廣田有里教授が柏市政功労者に選出

情報文化学科の廣田有里教授が、千葉県柏市の市制施行70周年に伴う市政功労者として表彰されました。廣田教授は、2013年から柏市行政不服及び情報公開・個人情報保護審議会の委員を務めるほか、数々のシステムのプロポーザル選定委員会にも加わるなど、同市の市政発展に貢献しています。

廣田教授のコメント

流山市に位置する江戸川大学ですが、隣接する柏市とも様々な形で関係しており、学生の教育の面でもご協力をいただいております。卒業生も数多く勤務しており、恩返しのできることをしてきたところです。このような形で謝意をいただき、ありがたく思います。地域とともに発展する江戸川大学の一員として、今後も近隣地区の発展に尽力してまいります。

千葉県献血功労者・献血推進啓発作品表彰式にて千葉県知事表彰

10月22日(火)に千葉県赤十字会館にて行われた、令和6年度千葉県献血功労者・献血推進啓発作品表彰式において、本学が千葉県知事表彰を受賞しました。

千葉県知事表彰は、献血の啓発・推進活動に協力し、貢献した団体に授与されるものです。

江戸川大学では毎年献血車が来校し、在学生や教職員が積極的に献血に協力しています。今後も社会貢献の一環として、献血活動に引き続き協力していく予定です。

令和6年度(第55回) 千葉県私学教育功労者表彰

千葉県私学教育振興財団は、千葉県の私学教育、学術又は文化の振興に関し、多年にわたる功績があった方々に對し、その功績を称え表彰を行っています。大学事務局から総務部広報課課長・学務部国際室室長の袴田涉さん、学務部学生課課長補佐の上野美保子さんが表彰されました。

強化指定部活動報告

2024年度公式戦活動報告

フットボールクラブ

千葉県大学サッカー選手権大会 優勝
千葉県大学サッカーリーグ1部 3位 (11勝2敗4分け)
千葉県大学サッカーリーグ2部 2位 (11勝3敗0分け)
「アミノバイタル®」カップ2024 第13回関東大学サッカートーナメント大会 1回戦出場
関東大学インディペンデンスリーグ2部 Cブロック 10位 (6勝11敗3分け)
関東大学インディペンデンスリーグ2部 Dブロック 11位 (3勝15敗3分け)

男子バスケットボール部

関東大学バスケットボール2部リーグ 5位 (14勝8敗)
Development-League リーグ戦出場

女子バスケットボール部

関東大学女子バスケットボール2部 Aブロック 通算8勝6敗 4位
全日本大学女子バスケットボール選手権大会 (インカレ) トーナメント1回戦出場
関東大学女子バスケットボール選手権大会 トーナメント2回戦出場
オズルンバグッドネス アヨミデ選手が2部 Aブロック得点王受賞

女子バレーボール部

関東大学女子バレーボール2部リーグ 6位 (6勝5敗)
東日本バレーボール大会選手権大会 (東日本インカレ) 出場
全日本バレーボール大学女子選手権大会 (全日本インカレ) 出場

経営社会学科3年・菊池季汐さんのFC今治トップチーム加入が内定

フットボールクラブに所属する経営社会学科3年の菊池季汐さんが、愛媛県今治市を拠点とするサッカークラブFC今治のトップチームに2026シーズンより加入することが内定しました。

菊池季汐さんコメント

FC今治に2026年に加入することになった菊池季汐です。ここまで育てていただいたコンサドーレ札幌、江戸川大学に深く感謝申し上げます。コンサドーレ札幌アカデミーでの12年間では、サッカーの楽しさを教えてもらい、サッカーを通じて人間としても成長させていただきました。進学した江戸川大学では、勝利至上ではなく、サッカー選手として成長しながら勝利を目指すことの重要性を学ばされました。今まで支えてきていただいた方々に、さらなる成長をもって恩返しできるよう努力してまいります。



菊池季汐さん

男女バスケットボール部が 地元・千葉県流山市のスポーツイベントに協力

江戸川大学男女バスケットボール部は、地元・千葉県流山市のスポーツ振興イベントに協力し、地域の子どもたちと交流しています。

11月24日(日)に行われた流山市スポーツ振興イベント「バスケットボールクリニック」(東京ドームグループ主催)では、講師の石崎巧さん、中川聡乃さんをサポートし、参加した小中学生100名と一緒にメニューに取り組みました。

12月7日(土)には、流山市が主催した「ながれやまスポーツフェスタ2024」で講習会を実施。小学生が楽しく取り組める練習メニューを考え、当日は参加した小学生と一緒に体を動かして交流を楽しみました。



男女バスケットボール部が 流山市の小学生ミニバスケットボール大会の運営をサポート

10月30日(水)と31日(木)の2日間、江戸川大学男女バスケットボール部の部員とスタッフが、大学のある流山市の小学生ミニバスケットボール大会の運営をサポートしました。キックマンアリーナにて行われた大会の運営サポートは、男女バスケットボール部の地域貢献活動として2022年度から行っているものです。会場準備や審判を担当した学生達は、子どもたちとのコミュニケーションを積極的にとり、一緒に大会運営の仕事をしました。また、小学生が懸命にプレーをする姿に感動し、子どもたちから多くのエネルギーをもらいました。



小学生と一緒に大会運営を行いました

男女バスケットボール部が中学生対象バスケットボールクリニックを開催

8月7日(水)に男女バスケットボール部が、地域の中学生を対象にEU Basketball Academy(江戸川大学バスケットボールクリニック)を午前・午後の2部制で実施しました。第2回となる今回は自由応募制で、30名の参加者が集まりました。

女子バスケットボール部の石川優希監督と男子バスケットボール部の藤岡慎太郎コーチを中心に、上達に欠かせない基礎やその応用をレクチャーしました。指導する側の経験はあまりない大学生部員、他校の生徒とペアを組んだ中学生部員の双方に始めは硬さが見えましたが、次第に打ち解けていきました。大きな声で励まし上達ぶりを褒める大学生や、休憩時間を惜しんで先輩にアドバイスを求める中学生の姿が見られました。

男子バスケットボール部の糸川岳勤監督が茨城ロボッツ10周年記念セレモニーにOB選手として招待

男子バスケットボール部の糸川岳勤監督が、9月8日(日)にアダストリアみとアリーナにて行われた茨城ロボッツ10周年記念セレモニーにOB選手として招待されました。糸川監督は、当日行われた記念企画「OB選手エキシビジョンゲーム」にも参加。茨城ロボッツ初代キャプテンの一世翔太さん率いる「チーム一色」でキレのある動きを披露し、会場に詰め掛けた3,000人以上のファンを沸かせました。

現在B1リーグ東地区に所属している茨城ロボッツは、2013年につくばロボッツとしてチームの歴史を歩み始めました。糸川監督は江戸川大学バスケットボール部で4年次に関東リーグ2部昇格を果たし、卒業後は、TGI D-RISE、アースフレンズ東京Zを経て、2015-2016シーズンにチーム草創期のサイバーダインつくばロボッツで活躍しました。

学生団体・クラブ・サークルの活動

自主活動団体「学生リーダー」が学内イベントを実施

自主活動団体「学生リーダー」は江戸川大学の教育理念を体現できるような、「やさしさ」と「教養」を持ち合わせることで、社会人としてリーダーシップをとれるような人材になることを目標としており、江戸川大学を盛り上げるための学内イベントを実施しています。

6月25日（火）には、地球温暖化が進む中の納涼イベントとして「打ち水大作戦」を実施。打ち水を実際に行い、併せて着物を着ることで日本の伝統文化に触れました。当日は、ハクビ京都きもの学院柏校様にご協力いただき、一人ひとり丁寧に着付けの指導をしていただきました。

12月には、在学生に江戸川大学の魅力を伝えることを目的とした、「江戸大チャレンジ」を実施。駒木キャンパス内に掲示された江戸川大学に関するクイズの答えをGoogle フォームに入力して回答。多くの在学生・教職員がクイズに参加していました。



学生が制作するラジオ番組「江戸川タイムズ」「きらめきトキメキ教えてラジオ！」

江戸川大学の学生が制作する2つのラジオ番組が放送中です。かつしかFM「江戸川タイムズ」はマスコミ自主講座でアナウンサーやリポーターをめざす学生が、江戸川大学の情報をお伝えする「江戸川大学ニュース」と、出演する学生自らが取材したことを紹介する「学生の視点」をお届けします。FMふくろう「きらめきトキメキ教えてラジオ！」は電波放送部の学生が、現役大学生が「きらめくもの」「ときめくもの」を探しお届けします。ぜひ、お聞きください。

「江戸川タイムズ」 放送日：毎月第2水曜日 15時00分～15時15分 放送媒体：かつしかFM（FM78.9MHz） かつしかFM インターネットサイマル配信

「きらめきトキメキ教えてラジオ！」 放送日：毎月第4水曜日 10時30分～10時59分 放送媒体：FMふくろう（FM85.8MHz） FMふくろうインターネットサイマル配信

コピーダンス愛好会が 大学対抗 K-POP カバーダンスサークル日本一決定戦「UNIKP」決勝戦に出場

課外活動団体であるコピーダンス愛好会「BLACK♡ANGEL」が、大学対抗 K-POP カバーダンスサークル日本一決定戦「UNIKP2024 Vol.10」の決勝戦に出場しました。

9月17日（火）に行われる決勝戦に先立ち、関東予選が7月1日（月）と2日（火）に行われ、江戸川大学・桜美林大学・神奈川大学・駒澤大学・上智大学・白百合女子大学・高千穂大学・中央大学・津田塾大学・立正大学・早稲田大学から計17チームが出場。BLACK♡ANGELは、初日に出場した9チーム中3位となり、チーム結成以来初となる決勝進出を果たしました。

学生部が体育会系学生団体向けの安全講習会を実施

学生部は、アスリートセンターとNPO 防災対策サポートの協力を得て、体育系の学生団体を対象に安全講習会を実施しました。今年は講義編と実技編、救命講習編の3つに分け、より実践的な内容となりました。

バドミントン部、野球同好会、バスケットボール同好会、フットサル愛好会、室内球技愛好会、ソフトテニス愛好会、バレーボール愛好会の学生が参加し、理解を深めました。



講義編：鈴木秀生アスリートセンター所長による説明会



実技編：アイスバスを使った熱中症の応急処置



救命講習編：AEDや胸骨圧迫実践

施設設備

A棟1階に個室ワークブース「テレキューブ」を増設

コロナ禍を経て、就職活動におけるオンライン企業説明会やオンライン面接などが増加し、防音・遮音性の高い環境の需要は高まっています。また、2024年度からは各大学で、障害のある学生に対して合理的配慮の提供が求められるようになり、学生のプライバシー保護は必須となっています。こうした昨今の需要の高まりから、今回、「テレキューブ」を3台増設し計7台設置しました。

「テレキューブ」は防音・遮音性に優れ、インターネット接続や電源供給が可能で、静音ファンを備えた排気システムにより換気性能も高く感染症対策にも適しており、安全で安心な環境となっています。



キャリアセンター側の3台



室内にはUSBポートとコンセントが各2つ完備



A棟入口側の4台

B棟1階にラーニングcommons「B.コモンズ」が完成

B.コモンズは、学生の自主的な学修や学生同士のディスカッションができる場を提供するスペースです。机、椅子、モニター、ホワイトボードなどはすべて可動式で、使用目的に応じて自由にレイアウトを変更できます。

この新しいラーニングcommonsの設置は、メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科と情報文化学科のコラボレーション企画である「21世紀メディアパーソン育成プログラム」の計画を進める中で構想されました。プログラム参加学生の活動拠点となるだけでなく、全学生が活発に利用できるようにデザインされています。

「B.コモンズ」という名称は学生からの公募で決定しました。のべ48件の応募が寄せられ、宮崎孝治学長とラーニングcommons設置プロジェクトメンバーが選考を行いました。審査の結果、情報文化学科2年生S.Yさん、経営社会学科2年生O.Mさんの考えた「B.コモンズ」が選ばれました。

10月16日(水)には開所式が行われ、セレモニーでは宮崎孝治学長、小口彦太前学長、デザインを手がけた一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所の花井裕一郎理事長、名称考案者の情報文化学科2年生S.Yさんがテープカットを行いました。



防災訓練

2024年度防災訓練は9月9日(月)、19日(木)の2日間行い、教職員合同の対面防災訓練を実施しました。

今回は地震発生後、A棟2階非常勤講師室から火災が発生したという想定の実地訓練と、救助袋の使い方を学ぶ部分訓練を行いました。全体訓練では、無線機、担架、消防設備の使い方の確認、要救助者の運び方、AEDの置き場所や使用方法を確認しました。部分訓練では、垂直式救助袋の扱い方を学んだあと、実際に降下訓練を行い救助袋での避難方法を体感しました。



2023年度決算報告

学校法人江戸川学園の2023年度決算報告を大学公式Webサイトで公開しています。事業活動収入は前年度より97万円減少の8,502万円、事業活動支出は前年度より53万円増加の8,082万円となり、基本金組入前当年度収支差額は前年度より150万円減少の420万円となりました。基本金組入額は前年度より218万円減少の205万円となり、当年度収支差額は215万円となりました。前年度繰越収支差額が△3,777万円の為、基本金取崩額1,005万円を勘案した翌年度繰越収支差額は△2,557万円となりました。

教育活動収支

教育活動収入は、学生生徒等納付金が19万円減少したことや、退職金社団等交付金収入が64万円減少したことで、前年度比84万円減少の8,434万円となりました。一方、教育活動支出は、人件費が前年度比55万円減少も、教育研究経費が156万円増加したこと等から、前年度比91万円増加の8,048万円となりました。その結果、教育活動収支差額は対前年度比175万円減少の386万円となりました。教育活動外収支差額は、前年比同水準の26万円。特別収支差額は、前年度比27万円増加の86万円となりました。

ありがとうロビン江戸川大学店!

ロビン江戸川大学店は、1981年に江戸川学園豊四季専門学校（現…江戸川学園おおたかの森専門学校）が開校して3年後の1984年より、約40年にわたり、ボリューム満ちたつぷりで美味しい手作り弁当を提供し、学生や教職員のお腹を満たしてきました。しかし、このたび諸般の事情により、今後の出店を取りやめるとのご連絡をいただきました。

閉店に際し、江戸川大学と江戸川学園おおたかの森専門学校は、公式SNSやポータルサイトを通じて在学生、卒業生、江戸川学園関係者からロビン江戸川大学店へのメッセージを募集しました。「ランチはロビンさんに一番お世話になった」「お弁当購入時に、おじちゃんと交わすちょっとした会話が楽しかった」「学生に優しい値段と量で大好きだった」など、160件以上の心温まるメッセージが寄せられました。

12月2日（月）には、江戸川大学1棟にて、長年の貢献に感謝の意を表す感謝状贈呈式が行われました。贈呈式には、長年販売をご担当されていた鶴谷隆明様、学校法人江戸川学園・木内英仁理事長、在学生、教職員が参加しました。式では木内理事長より感謝状が贈呈され、学生代表からは寄せられたメッセージをまとめたメッセージブックと花束が鶴谷様に手渡されました。

ロビン江戸川大学店の皆さま、長きにわたり本学園の学生や教職員に美味しいお弁当をご提供いただき心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

また、ロビン江戸川大学店への愛情あふれる心のこもったメッセージをお寄せくださった皆さまにも、深くお礼申し上げます。



江戸川学園



感謝状贈呈式後に記念撮影



ロビン江戸川大学店の営業風景



販売をご担当されていた「おじちゃん」こと鶴谷隆明様

こどもコミュニケーション学科が 10周年記念パーティーを開催

こどもコミュニケーション学科は、保育士及び幼稚園教諭の養成を目指す学科として2014年に設立され、2024年に10周年を迎えました。これを記念し、11月30日(土)に、設立10周年記念パーティーを開催しました。



デフバスケット日本代表の江戸川大学卒業生・ 若松優津さんがアジア大会 2024で優勝

卒業生の若松優津さん(2018年卒・メディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科)が所属するデフバスケットボール女子日本代表チームが、「アジア太平洋ろう者バスケットボール選手権大会(Asia-Pacific Deaf Basketball Championships) 2024」で優勝しました。

今大会には日本、オーストラリア、台湾が出場し、日本代表はメルボルンで行われた決勝でオーストラリアに85対67で勝利しました。若松さんはこの決勝戦でチーム最多となる18得点・7スティールの活躍を見せ、大会MVPに選ばれました。

2025年11月には東京デフリンピックが開催されます。頑張る卒業生の応援をよろしくお願いいたします。

マスコミ学科の学生が 第49回報知映画賞表彰式の運営に参加

マス・コミュニケーション学科の学生10人が、12月16日(月)に行われた第49回報知映画賞表彰式の運営に参加しました。

報知映画賞は、1976年に設立された歴史ある賞で、主要な映画賞の先陣を切って決定・発表するため、「その年の映画賞の流れをつくる」と言われ、注目を集めています。また、一般映画ファンの投票を元にノミネートを決定することも大きな特徴です。

学校法人江戸川学園江戸川大学は、開学当初から今日に至るまで、メディア芸術やメディアコミュニケーションを研究対象とし、映画・映像業界出身者による教育を行い、同業界で活躍する卒業生を多く輩出してきました。

このような背景のもと、江戸川大学は賞の趣旨に賛同し、「大学の映画賞協賛は少なくとも本賞では初(報知新聞社担当者談)」とされる、報知映画賞への協賛を決定しました。そして、その表彰式を、映像制作やメディアコミュニケーション、イベント運営を学ぶ学生たちにとって絶好の学びの場とすべく、報知新聞社と協議し、学生に当日の運営を経験させてもらうことができました。

学生たちは、受賞者控室の準備や参列者座席への名札配置、受付、式場内誘導などの業務を担当するほか、監督賞を受賞した塚原あゆ子監督への花束贈呈という大役も担いました。



第49回報知映画賞受賞者と当日運営に参加したマスコミ学科学生(後列)
(提供: 報知新聞社)

ご寄付のお願い

江戸川大学が学生の学びを支え続けていくためには、より良い教育環境の整備や文化・スポーツ等の課外活動に対する支援が必要となります。皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



お申し込み、免税措置などの
詳細はこちらから

◎編集後記

これまでお読みいただきありがとうございました。今号は、かなり読み応えがあったのではないかと思います。広報誌に掲載する内容は、大学公式WebサイトやSNSで紹介した教育研究活動や学生の活動などから厳選するのですが…今回は過去最多の記事数でした。

江戸川大学の研究活動や、学生の活躍が活発になりとても嬉しい反面、ページ数の都合上、割愛をしなければならず…悩みに悩んでなんとか発行できました。これからもお寄せいただいた情報を、様々な形でお届けしていきたいと思っております。

江戸川大学学報

2025年2月号 第55号

Vol.23 No.2 2025年2月28日発行

発行 江戸川大学 事務局 総務部広報課
〒270-0198 千葉県流山市駒木 474
TEL.04-7152-9980